「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 4 年 4 月 15 日

事業名称		通学路等学校安全対策事業費 [学童交通擁護ボランティア保険加入事業]									
予算科目	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	教育指導費	事業番号	5
事業の種別		☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)									
担当部署・課長名		教育総務 課 学務 係				課長名		斎藤 謙二郎			
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	1 - 1		
【施策名】 学校教育の充実								総合計画書 (ページ)	31		
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)					
	学童交通擁護ボランティア					学童交通擁護ボランティアの人数					
	→										
2 指標の推移	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)					
	安心して活動ができる					ボランティア保険の加入率					
	→										
3 経費	③ そのために何をしましたか。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)					
	ボランティア活動に従事している方を対象に、社会福祉協議会のボランティア保険に加入する					ボランティア保険に加入した学童交通擁護ボランティアの人数					
	→										
		単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標				
			平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績		令和4年度目標	令和5年度目標			
対象指標	①の数値	人	642	564	503						
成果指標	②の数値	%	100	100	100						
目標	②の目標値	%	100	100	100						
		目標値設定の考え方									
		ボランティア保険に全員加入させることで、学童交通擁護ボランティアが安心して活動できるようにする。									
活動指標	③の数値	人	642	564	503						
3 経費	事業費(実績)		円	192,600	169,200	176,050		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,250,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】令和2年度決算数値(退職手当組合負担金、共済費も含む。)			
	財源	一般財源	円	192,600	169,200	176,050					
		特定財源(国・都・他)	円	0	0	0					
		(うち受益者負担)	円	0	0	0					
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)		人	0.05	0.05	0.05				
		所要人数(再任用)		人	0.0	0.0	0.0				
		職員人件費(再任用以外)		円	415,500	419,000	412,500				
	職員人件費(再任用)		円	0	0	0					
事業費+人件費		円	608,100	588,200	588,550						
4 環境変化等	(1) 開始年度		13 年度								
	(2) 環境の変化		平成11年度までは、小学校9校13か所に学童交通擁護員が配置されていたが、平成12年度からは、信号機の設置されていない第七小学校の1か所を除き廃止された。それ以降は、地域のボランティア活動が見守り活動の中心となっており、その活動を後押しするために、本事業を開始したものである。 他府県において、登下校中の児童・生徒が事故に巻き込まれる重大事故が発生したことから、通学路の安全に関心を持つ保護者が増加している。								

事業名称	通学路等学校安全対策事業費 [学童交通擁護ボランティア保険加入事業]				
担当部署・課長名	教育総務	課	学務	係	課長名 斎藤 謙二郎

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和3年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 通学時の見守り活動や安全確保については、議会からも一般質問等を通じて適切な運営等について要望がなされている。				
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。(複数回答可)				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない	取組手法：③ 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体：) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()			
	(2)令和4年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点 特になし				
7 課題	(1)令和3年度に課題とした内容(「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題(3))を転記 学校により、学童交通擁護ボランティアの人数に大きなひらきがあり、取り組みの状況についても学校間で差が出ている。				
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和3年度に実施したこと。 ボランティア保険等による支援について、機会を捉えて、学校に案内した。また、ボランティア保険料の単価は、令和2年度と比べて令和3年度は高くなったが、適切に予算を確保することで、学童交通擁護ボランティア全員が加入することができた。				
	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案) 学校により、学童交通擁護ボランティアの人数に大きなひらきがあり、取り組みの状況についても学校間で差が出ているとともに、学童交通擁護ボランティアの担い手が全体的に減少傾向にあることから、新たな担い手の確保に努める必要がある。				
8	施策貢献状況 (この仕事は、総合計画(基本計画)に掲げる課題の解決手段になっているか。) 施策名： 学校教育の充実 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名()				
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など) ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 通学路の安全確保は、重要な問題であり、地域住民の関心は高い。今後もボランティアの方々の負担軽減に配慮しつつ、少しでも多くの方の見守りと活動への理解・協力が得られるように、ボランティア保険への加入や教育委員会だより等を通じてボランティア活動の紹介や担い手の募集などを行っていく。				
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 機会を捉えて、学童交通擁護ボランティアの活動と効果を周知し、参加人数が少ない学校への声かけ、働きかけを継続して行う。				